

# 学習指導案の形式（例） 小学校国語科

## 第○学年○組 国語科 学習指導案

令和○年○月○日（○）第○校時 ○○教室 指導者 ○○ ○○

1 単元名 ○○○○○○○○  
教材名 「○○○○○○○」（出版社名、学年）

◇まとまりをもった教育内容の単位の名称を書く。名称の工夫として、「単元名」には当該単元に位置付ける言語活動を書く。

2 単元の目標

- (1) 「知識及び技能」に関する目標（例：～できる。） [知識及び技能] (1)オ
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標（例：～できる。） [思考力、判断力、表現力等] A(1)イ
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標（例：～しようとする。） [学びに向かう力、人間性等]

◇学習指導要領の目標及び内容（指導事項）を踏まえて設定する。  
 ◇ねらいを明確にするために、(2)「思考力、判断力、表現力等」では、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の3領域から観点を絞ることが望ましい。  
 ◇(1)(2)の文末には、「[資質・能力名]と指導事項を記号で明記する。(3)の文末には、「[学びに向かう力、人間性等]と明記する。  
 ◇児童の立場で書く。

3 単元で取り上げる言語活動

例：○○○○○について～を報告したり、感想を記述したりする。（関連：言語活動例ア）

◇児童の実態を踏まえて言語活動を設定する。文末には、関連する言語活動例を記号で明記する。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①例：～している。	①例：～している。	①例：～しようとしている。

◇「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準は、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項の文末を「～している。」として作成する。文末には、指導事項を記号で明記する。「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、「粘り強さ、自らの学習の調整、他の2観点において重点とする内容、当該単元の具体的な言語活動」の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて設定する。  
 ◇評価規準の設定に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（令和2年3月 国立教育政策研究所）、「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価」（令和2年2月 岡山県総合教育センター）等を参考にして適切に設定する。

5 指導と評価の計画（全○時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価規準及び評価方法
一	1	○例：～できる。 ○例：～の見通しをもつ。～を書く。 ◇ねらいを明確にして書く。 ◇児童の立場で書く。	[観点①]（方法） ○例：～している。 ～しようとしている。
	2		◇「4 単元の評価規準」の観点と一致させ、番号でつなげて書く。

6 指導上の立場

- 単元観
- 児童観
- 指導観
- 研究主題との関連
- 全国及び県学力・学習状況調査との関連

◇指導者の立場で書く。

◇単元観…本単元で身に付けさせたい資質・能力、位置付ける言語活動とその特徴等を書く。  
 ◇児童観…本単元に関する興味・関心、資質・能力の状況、既習の言語活動等について書く。本単元において目指す児童の姿等について書く。  
 ◇指導観…指導・支援の重点、学習形態、その他の配慮事項等、児童のよさや可能性を生かすような指導方法の工夫等を書く。  
 ◇研究主題との関連…研究主題の説明を簡潔に書き、研究主題と授業における指導方法の工夫等との関連等を書く。  
 ◇全国及び県学力・学習状況調査との関連…現状と課題、課題についての取組等を書く。

7 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

例：～することができる。

- ◇「2 単元の目標」「5 指導と評価の計画」との整合を図る。
- ◇本時の評価規準との整合を図る。
- ◇児童の立場で書く。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1	○	
◇児童の立場で書く。	◇指導者の立場で書く。	◇児童の立場で書く。
2 (1)	<p>めあて</p> <p>◇児童の目的意識のまとまりを踏まえて、何をどのように学ぶのかを明確にして本時のめあてを書く。</p>	◇本時の目標と評価規準を具体的に書く。抽象的ではなく、実際可能なレベルで具体化する。
◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。	○例：～することで、～できるようにする。	◇評価の場面は1、2箇所を絞る。
(2) 例：～について話し合う。	<p>◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に学習を進めるための手だて</li> <li>・児童が対話的に学習を進めるための手だて</li> <li>・児童が学習を深めるための手だて</li> <li>・児童一人一人の学習状況に応じた手だて</li> <li>・予想される児童の反応</li> <li>・資料提示のタイミングや方法</li> <li>・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物等</li> </ul> <p>◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。</p> <p>◇「努力を要する」状況（C）と判断される児童への手だてを書く。</p>	◇評価規準に合わせて、評価の観点を記号で明記する。
◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、児童の学習活動を具体的に書く。授業展開は「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考にする。		◇評価方法を書く。
3		○例：～している。A(1)イ [評価の観点] (評価方法)
4	○	◇評価方法の例 ・発言の内容 ・行動の観察 ・ノート、ワークシートの記述等
5	<p>まとめ</p> <p>◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時のめあてと対応したまとめを書く。</p> <p>◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にする。</p>	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する児童の姿 例：～している。

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう児童の姿について、想定される児童の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な児童の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。